

だ み よ く り に

No.713 令和3年5月1日発行



子どもってすごい！

次の文を読んでみてください
手を繋いで歩く
腰に手を添える
かがんで相手の顔を見る
目線を合わせる
質問形で話す

これを読み、どのような場面を思い浮かべましたか。
お年寄りと介護士、患者と看護師、生徒と先生…といった場面でしょうか。または後半の文は、店員とお客さんとのやりとりを思い浮かべるかもしれません。これらは、相手を思いやって、そっと手をさしのべよう、相手に寄り添おうとする場面にとる行動ですね。きっと大人のわたしたちなら誰もが一度は受けたことがある人との温かい関わり。もしくは、自分がした経験がある行動だと思います。

さて、これがどのような場面だったのか、答えです。

年長と年少のやりとりです。

4月ある日の登園時間に園庭で、テラスで、教室で、至るところで見られました。特に、言葉づかいも印象的です。「しなさい」と命令形ではなく、「いい？」「わかる？」と質問形で優しく声をかけていました。生まれてたった4、5年の子どもたちが具体的な行動、

方法を誰かから教わることもなく、このような行動をとるのです。

多少は意図的に保育者が促す声をかけてはいますが、きっかけ作り、気持ち作りを手伝う程度です。具体的なしぐさは教えていません。

自分が受けた経験、見聞きした経験が行動に現れる、これは生まれながらにもつ子どもたちの「力」です。すばらしいことです。

そう考えると、子どもたちの身近にいるわたしたち大人は自分の行動に責任を持たなくては、と気が引き締まりますね。

さて、子どもたち一人一人これからどのような力を発揮していくのでしょうか。

「今」発揮する力は、今しか見られません。どうぞ見逃さずに今の姿を見てあげてください。

保育者は、お子さまのもつ力やすばらしさをしっかりと受けとめる目を持ち続け、丁寧に伸ばしていく、そんな心持ちでいます。

春の暖かさと共に、「子ども一人一人を大切にする」という園の理念をあらためて思い返した春でした。

コロナウイルス感染者が増え続けている状況です。お子さまの安全を守るため、引き続き、対策へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。